

コミュニティ だより

徳島市
徳島市コミュニティ
連絡協議会

〒770-8571
徳島市幸町2丁目5番地
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511

第22回 徳島市コミュニティまつり 開催

加茂名まちづくり協議会 杉本 悦子

夜来の雨がやむのを祈りつ
つ、十月二十八日(日)徳島
市コミュニティまつりが、主
会場となった加茂名コミュニ



演芸大会

ティセンターで、盛大に開催
されました。

三年前よりブロック単位で
の開催となり平成二十四年度
は佐古、加茂、加茂名の各協
議会が担当になり、協議の上、
実行委員会を立ち上げ、何度



フロアカーリング

も会議を重ね、本番に臨みま
した。
開会式では、ご来賓の皆さま
まから温かいご祝辞をいただ
き、また、各協議会からは趣
向を凝らした出し物の演芸大
会や、玉ねぎの皮やあかねの
木を使った染色体験もあり、
加茂名小学校校庭で行われた
起震車も来場者に体験してい
ただきました。
「わあーうどんおいしいな
あ、焼きイモ買おうか」など
の声が模擬店で飛び交い、即




染色体験

売会コーナーも大人気で野菜
やバナナ、味噌やういろうな
ど売り切れ続出でした。
また、加茂名小学校では、
フロアカーリングが行われ、
記録的な参加人数となり、担
当役員の方々もうれしい悲鳴
をあげました。
演芸大会の終了後、閉会式
でお礼の言葉を述べていただ
き、さて、お楽しみの大抽選
会に突入です。運営委員長の
巧みな司会で始まった抽選会



大抽選会

も、二位、一位、特賞ともな
ると皆さん抽選券を握りしめ
て、番号が読み上げられるた
びに歓声やため息やら、大
変な賑わいの中、無事日程を
終了することができました。
前日、前々日よりご協力い
ただきました佐古、加茂両協
議会、当日参加のコミュニ
ティ協議会の皆さま、加茂名
地区の関係者の
方々に厚くお礼
申し上げます。


すみじょう阿波踊り ちびっこ連の活動



住吉・城東地区町づくり協議会
会長 芝 正裕

コミュニティ活動の一環として「すみじょう阿波踊りちびっこ連」が平成二十二年に結成されました。前年、日本宝くじ協会文化振興事業により阿波踊り用品の寄贈を受けたのが契機です。

伝統芸能阿波踊り継承の重要性を説き、城東小学校児童に連への加入を呼びかけ、五

十名の参加を得てスタートしました。指導は地元にお住まいの、ゑびす連副連長黒川義氏にお願いしました。最初はぎこちない様子でしたが、姿勢や足の運びの基本を教わり、次第に滑らかに踊ることができるようになりました。その後、ステージでの踊りの構成を創意工夫し、多彩な踊りができる



住吉神社夏祭 (平成22年7月13日)



福祉まつりを終え全員で (平成24年7月12日)

よう練習を重ねました。こどもたちは踊りに自信を持つようになり、発足二年目には、福祉まつり、住吉センターストリートフェア、コミセンまつりに出演しました。今年度は、中央自動車学校祭への出演が加わりました。いろんな行事に

参加して地域の賑わいに自分たちの活動が役立つと思っていると意識し始め、また地域の人々はかわいらしく巧みな踊りに感銘するとともに、この活動が町の活性化に貢献していると評価してくれるようになりました。嬉しいことです。

一方、鳴り物の育成にも並行して取り組みました。三味線教室を開設し、婦人会の方々に稽古に励んでもらいました。平成二十三年には太鼓と鉦打ちを得意とする方々にも参加していただき、ひとまずまとまった演奏ができるようになりました。続いて児童にも笛、鉦、締太鼓、三味線が演奏できるように指導し、鳴り物に幅と厚みをも



中央自動車学校中央祭出演 (平成24年11月23日)

たせるようにしました。この間の鳴り物の楽器すべての技術指導は、住吉在住で娯茶平連の松下宗二郎氏のお世話になりました。発足後三年にしてようやく連全体の活動のカタチがととのいました。

今後いつそうちびっこ連の活動を盛り上げ、地域の活性化につなげたいと思います。

シリーズ
名所・旧跡

あまのわげ 天佐自能和氣神社

不動文化財保勝会

会長 松本 智

祭神

神皇産靈尊
タカミムスビノミコト

高皇産靈尊
ヒコサシカタワケノミコト

日子刺肩和氣命
オホヤマトクニアレヒメノミコト

意富夜麻登玖邇阿礼比賣命
オオヤマトクニアレヒメノミコト

延喜式神名記によると、古事記孝靈天皇紀に、意富夜麻登玖邇阿礼比賣という妃に日子刺肩別命が生まれ、この皇子をお祭りしています。

意富夜麻登玖邇阿礼比賣の父は和知都美命といい、安寧天皇代三皇子師木津日子命の王子として淡路御井宮に居住していたとされています。この所縁などから、この神を淡路に近い阿波の国高崎村（現不動東町）に祭り、祭期は秋一祭とし永く絶えることなく、現在に続いています。

当社礼祭後は、三日間諸人の参拝を許さずと往古よりの慣例となっており、これを犯し翌日参拝したところ急病となりついに不起の人となったということが過去にあったそうです。

今に至るまで礼祭執行後は直ちに社殿へ注意繩を引き回し三日間は諸人の参拝を許しておりません。氏子等も一人として参拝する者はおおりません。当社



は吉野川の支流別宮川の沿岸に位置し、洪水に際しては上流からの激流が社殿に怒とうのごとき大渦の様相をなし襲いかかってきました。このような危険な地ではありますが、往古より崩壊することなく社殿は依然として盤石の上に建っております。不思議



なことに洪水のときには社殿内から御神楽の音を発し、洪水が襲ってくることを氏子に知らせたといわれています。大洪水から難を逃れた者も多数おり、明治三十二年には県下未曾有の洪水があり、氏子らは一心不乱に大神の冥助を祈り社殿内自ら御神楽の音を高く聞けたといえます。大正元年夏、突如として襲来した大暴風雨は、県下全域

に膨大な被害をあたえ、大洪水となり吉野川流域に多数の死者と流出家屋を出し、散々なる爪跡を残しました。このことがもとで復旧作業として吉野川改修工事が大々的に施行されました。これによって、旧吉野川沿岸に鎮座していた当社は現在の位置に移居したのであります。

昭和四十四年九月二十三日放火により社殿を消失しました。

氏子相寄り再建を企画して奉賛会を結成し、広く県内外から浄財を得て昭和四十五年竣工されました。

昭和四十九年四月十七日には、天佐自能和氣神社壱千年祭が厳肅に執り行われ、現在に至っております。

壱千年祭趣旨書より
(不動コミュニティ協議会)



徳島市八多町と 神戸市八多町との交流会

多家長中央コミュニティ協議会

会長 芝原 孝昌

三年前より全国唯一の同じ町名と同じような自然環境、中山間地のゆえんで交流が始まりました。十年程前に神戸市北区八多町の熱心な自治協議会の役員様が初めて来訪し、その後、犬飼農村舞台の阿波人形浄瑠璃公演をテレビ報道で知り、再度来町した役員代表が秋の舞台公演を見て感動し、交流会が提案されました。神戸市北区八多町は古い歴史と裏六甲の麓に位置し、大都市に近く、山陽高速道中国高速道など交通の要所として発展しておりますが、自然や伝統文化を大切にふれあいの町づくりを進めており、我が町も参考になることが多く交流を進めました。

第一回は平成二十二年十一月三日文化の日、犬飼農村舞台の阿波人形浄瑠璃公演にあわせて、自治協議会の役員と県議、市議も加わった総勢三十七名の皆さまが朝、神戸市を出発され、ご来場。地元八多町協議会、公民館の役員が出迎え、共に公演を楽しみ交流しました。
第二回は平成二十三年七月二十四日、徳島市八多町の協議会役員等三十五名で神戸市八多町を訪ねました。ふれあいセンターで地元の伝統文化の八多太鼓の歓迎演奏で始まり、相互の紹介あいさつ後、会場を野外公園へ。名産、神戸牛の焼き肉パーティーを味わいながら交流を深め、阿波

踊りをみんなで踊り締めくくりました。

第三回は平成二十四年十月十四日、第二十七回国民文化祭とくしまに参加、犬飼農村舞台の阿波人形浄瑠璃公演にあわせて神戸市八多町の自治協議会役員等、三十名の皆さまが来場、公演のオープニングに八多太鼓の威勢のよい演奏で始まり、祝い物の寿三番叟と続きました。昼食は場所を八多子供公園に移し、阿波

尾鶏の焼き鳥、伊勢エビ汁など徳島の食材を楽しみ、最後に阿波踊りをみんなで踊り、再会を期して終えました。

今後とも同名の町として、交流を深め、絆を強めていきたいと念願しています。



犬飼農村舞台での八多太鼓の演奏

町民会館を拠点としての まちづくりの心得

川内まちづくり協議会

会長 増金 賢治

現在の町民会館は、昭和五十三年に建築されたもので三十四年が経過し、その間まちづくり重要な役割を果たしてきました。老朽化と耐震補強対策を兼ねて、大規模改修

計画を徳島市において進めていただいております。
この機会に「川内町」の成り立ちについて考えてみますと、川内の名の由来は、今切川・榎瀬江湖川・吉野川(別

宮川)・宮島江湖川に囲まれた中にあるという地形条件を表現しているからだといっても過言ではありません。が、安政の大地震(一八五五年)に伴う暴風雨と洪水の甚大な災害復旧についての嘆願書「川之内拾ヶ村一團奉願御訴訟之事」にあることから一般化されたものと考えられております。
川内町は吉野川の下流に位置するデルタ地帯で穀倉地帯です。現在では野菜類におい

て京阪神地域への重要な供給
産地となっております。一方
で、工業団地への企業立地、
流通センター、ブレイズパー
ク徳島の立地等産業開発が進
んでおります。これらの開発
の基盤となります道路整備に
ついても、町内中心部を南北
に走る国道十一号線、徳島東
環状道路等の整備、さらには
四国高速自動車道の整備促進
が図られるなど産業経済、生
活環境の整備推進の動脈とし
て重要な役割を果たしており
ます。当然都市化の進捗とと
もに住宅開発が進み、人口の
増加に対応した生活環境施設
の整備を進め、安心して安全
に暮らせる「まちづくり」が
求められております。

新しく改修される町民会館
は歴史と伝統の「ムラ」を生
かしつつ、新しい都市化に伴
う「マチ」との相互の融和と
連帯感のバランスを保ちなが
ら、町民ひとりひとりの心の
よりどころとしての拠点機能

の発揮が追い求められている
ことを肝に銘じながら、これ
からのまちづくりの推進に決

意を新たにしているところで
す。

自然の中で野菜づくり

上八万まちづくり協議会

会長 富永仁一

農家に生まれた私は、小さ
いときから農業を手伝われ
ることが嫌で仕方なかった。
子供が生まれ安全な無農薬野
菜の栽培に興味を持ち、野菜
を自分で作りたいという衝動
を抑えられなくなり、住居近
くの耕作放棄地を譲り受け、
クマザサや樹齢数十年もの大
木があった土地を開墾した。

気が遠くなるような作業を数
年繰り返し、その貴重な汗と
血を流した土地が我が菜園で
ある。

つるはしで笹の根っこ（根ぶ
ち）を切り裂いて、掘り上げ
ていくのは大変な労力で、百
姓の人でさえこんな作業はで
きん、「ようせんわ」という
ほどきついものであった。つ
るはしと鍬を何千、何万回と
振り上げ根ぶちを掘り上げる、

それだけ努力し手にした菜
園だけに愛着が人一倍強い
のは当然であるが、それにも増
して周囲が雑木林に囲まれ、
森林浴と野鳥がたくさん飛来
し声をかけてくれる。言葉で
言えない体の奥底まで癒され
る気がするのである。キジ、
モズ、ホトトギス、ウグイス、
メジロ、シジユウカラ、ヤマ
ガラ、ウズラなどであるが、
しばしば害鳥となるカラス、
ムクドリたちもいる。その他
たくさんのお名前を知らない来訪

者にも恵まれている。訪れる
鳥たちの顔、声で季節の移ろ
いを知るのも楽しみなのであ
る。また、町なかで住んでい
る孫を小さいときから畑に連
れて行き遊ばせていたので、
きれいなマンションに住みた
いという子が多い中で、近く
に大きな木がたくさんあり小
川が流れているところに住み
たいと先生に話したという。
山の中で幼児期を過ごした影
響かもしれない。孫の好きな
トマト、イチゴを作り一緒に
過ごせたのがうれしい思い出
である。

の菜園と周囲の小さい自然の
中で生息している生物、植物
の営みと人との関わりを観察
、発見することができた。静か
に時間が流れ生きている実感
を気付かせてもらったことに
感謝したい。

クマザサや樹齢数十年もの大
木があった土地を開墾した。
つるはしで笹の根っこ（根ぶ
ち）を切り裂いて、掘り上げ
ていくのは大変な労力で、百
姓の人でさえこんな作業はで
きん、「ようせんわ」という
ほどきついものであった。つ
るはしと鍬を何千、何万回と
振り上げ根ぶちを掘り上げる、

菜園のすぐ近くで道路拡幅
工事が行われ、小さく群生し
ていたスマイレ、また、名前の
ない古種木、希少な柿の木な
どが消滅した。ここ数年で日
本タンポポが外来種に席捲さ
れる状況になっている。また、
春には近辺のお年寄りがヨモ
ギ餅を作るため畔にあるヨモ
ギを採りに来て、頂いていい
ですかの交流も生まれる。こ

その結果、量的、質的にも多
くの収穫が得られた。近所の
農家の皆さんこそ私の先生で
あり、気軽に野菜談義から世
間話に井戸端会議ならぬ、野
菜畑会議になるのである。農
家の人は実直で飾らない、気
が許せる人たちとお友達にな
れた。これがまちづくりの原
点であると思う。

かかしのはびっこづり

昭和コミュニティ協議会

谷崎 範子

初めまして。昭和コミセンの「かかし」です。性別不明の私は、四年前の夏からコミセン前に立っています。

当初の目的は、ドラム缶に植えられた稲を雀から守るためでした。ところが、道を行く人の中には人間と間違え「ぎよつ」とする人もいて、それなら防犯に役立つのではと、秋以降も立ち続けることとなり、ついでに衣装をサンタクローズ、節分の鬼、お雛

様などに着替え、地域の人たちに季節を感じてもらっていました。

でも事件は突然おこりました。かかし制作の腕が上がり、本当に人かと思いいいさつをしてしまう住人が増えた二年前の一月、誘拐されました。

シヨックでした。地域防犯に役立つと思っているのに、自分が連れ去られるとは：晴れ着姿がいけなかったのでしょうか？マラソン姿な



ら逃げ出せたかもしれません。幸い近くで発見され無事帰ることができました。

嬉しいこともありました。仲間が増えたのです。彼女は藁でできたかかしではなく、マネキン人形。コミセンのロビーでここを訪れる人にほほ笑んでいます。どことなくレトロな雰囲気があり、スーツ姿は「二十四の瞳」の大石先生のようです。着物姿もまた昭和の時代を彷彿とさせてくれます。

話は変わって、昭和コミセンも平成二十六年には新しい建物になります。富田中学校の横なので中学生に会えるの

も楽しみです。

もちろん私たちかかしもマネキンも連れて行ってもらえますよね？なんだか心配になってきました。他のコミセンにも、かかし仲間を作って「かかしサミット」を開くなんてどうですか？応援よろしくお願いします。

編集後記

秀吉は家政に一宮城より海に近い城山に城を作らせ徳島城と名づけたといわれます。城を中心にまちづくりを行い徳島市の基礎を作りました。先見の明といえるでしょう。

不動の神社の紹介は、貴重なまちづくりのところでしよう。奈良時代の口分田の不動の地図は唯一最古のものがあり、古代から開けた地であることが証明されます。

地名は重大で、徳島市の八多町と同じ地名が神戸にもあり交流会ができたことは歴史に包まれたニュースです。

川内の名の由来から紹介された町民の心のよりどころとして町民会館を盛り上げようとされています。

住吉・城東地区の「すみじょう阿波踊りちびっこ連」の創設も町づくりにかける地域の願いが込められています。

昭和のほほえましいアイデアもすばらしいものです。上八万の農村的なコミュニティの創設を提言してくれました。加茂名のコミュニティまつりの努力と協力は、現代の徳島のまちづくりを紹介されました。

(佐藤義忠 記)

